

令和8年2月26日
野菜振興部

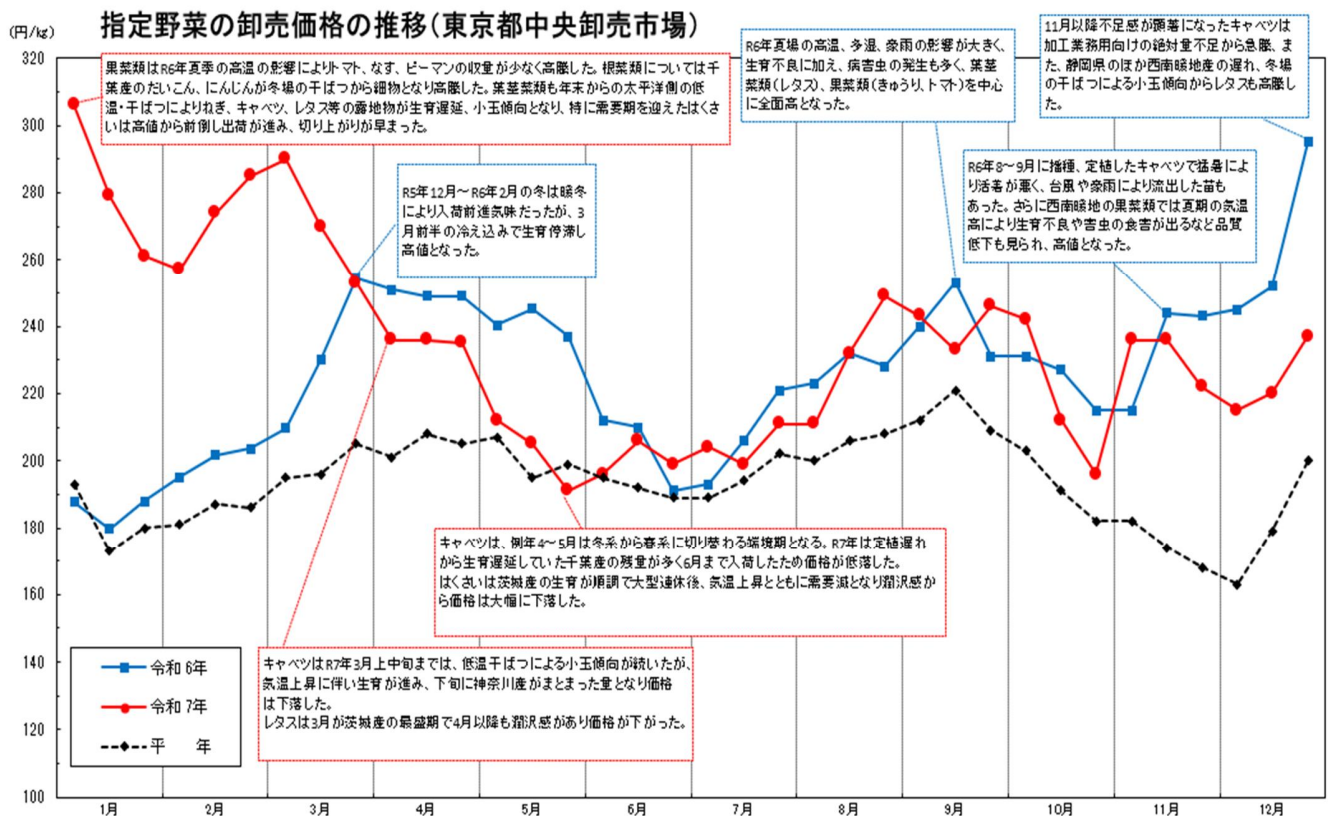
令和7年度緊急需給調整事業の実施状況について

1 指定野菜の需給・価格動向

令和7年の指定野菜の需給・価格動向を見ると、前年（令和6年）9～11月までの記録的な高温や11月の多雨が秋冬野菜（葉茎菜類）の播種時期と重なったことから育苗が厳しく、また、年明けは雨が少なく、干ばつ気味となったことから3月まで多くの品目で高値が続いた。

例年であれば5月以降は西南暖地から東へ産地が移行し端境期となるが、7年は大型連休以降、晴れの日と雨の日が周期的に変わり、野菜の生育に適した気象であったことや西南暖地の残量が多く後続産地との出荷が重なったことから価格が下落した。夏場は特に果菜類で酷暑により花落ち、着果不良が発生したほか、高冷産地でも猛暑の影響で出荷数量が伸びず、品薄感から価格は高騰した。秋冬野菜に関しては、夏場の高温等の影響はあったものの、概ね順調な入荷となり前年のような高騰にはならなかった。

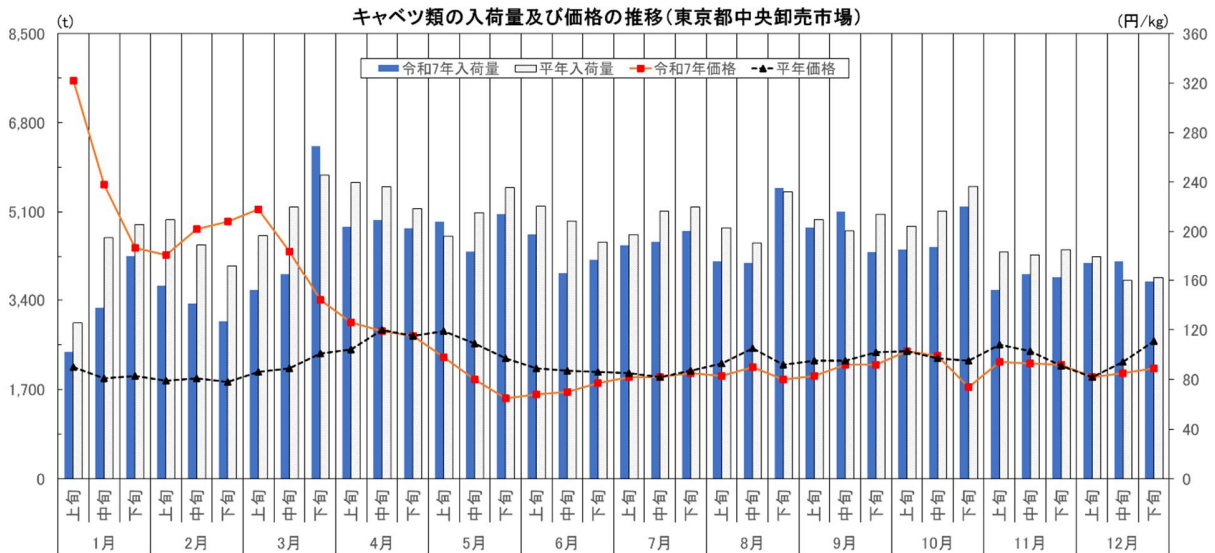
年間を通して、北海道産のばれいしょ、たまねぎは高温の影響で不作が続き高値となった。さといもも前年に引き続き夏場の高温の影響で小玉傾向で作柄不良となり高値で推移した。



2 令和7年の野菜（キャベツ、はくさい、レタス）の需給・価格動向

(1) キャベツ

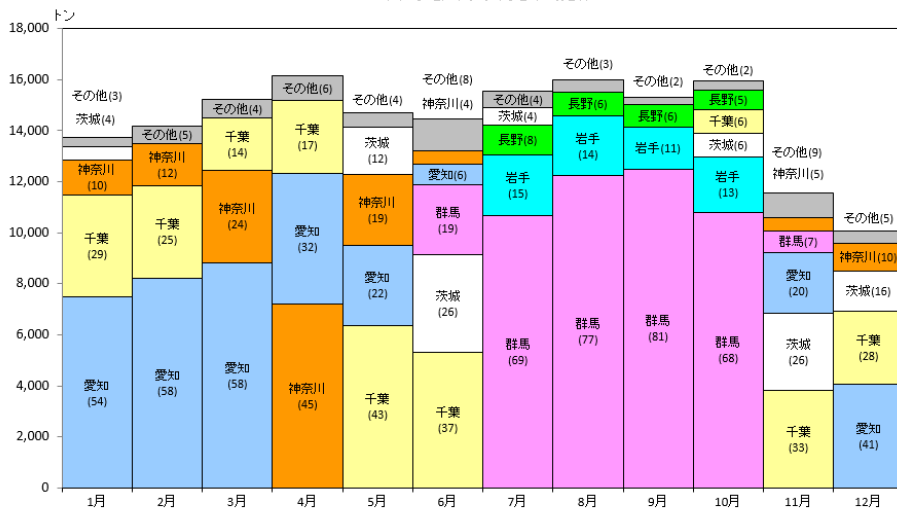
令和7年1月～3月上旬までは、昨年の夏から初秋にかけての猛暑、12月の寒波、雨不足などの異常気象により、愛知県、千葉県などの主力産地で肥大が進まず、生育が遅延し、小玉傾向となったことから価格は平年を大幅に上回った。春系に切り替わった4月以降は適度な降雨と気温上昇で入荷が増えたことから、価格は下落し、特に5月以降は平年を下回って推移し、6月は終盤の千葉産と後続産地の出回りが重なり、月間の卸値としては2014年以來の最低となった。10月下旬以降、産地の切り替わりとなり入荷量が減り、例年12月に入荷量が増える愛知産も小玉傾向で価格は平年を下回った。年間を通して入荷量は平年を下回る月が多かった。



資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注：平年とは、過去5カ年（令和2～6年）の旬別価格の平均値である。

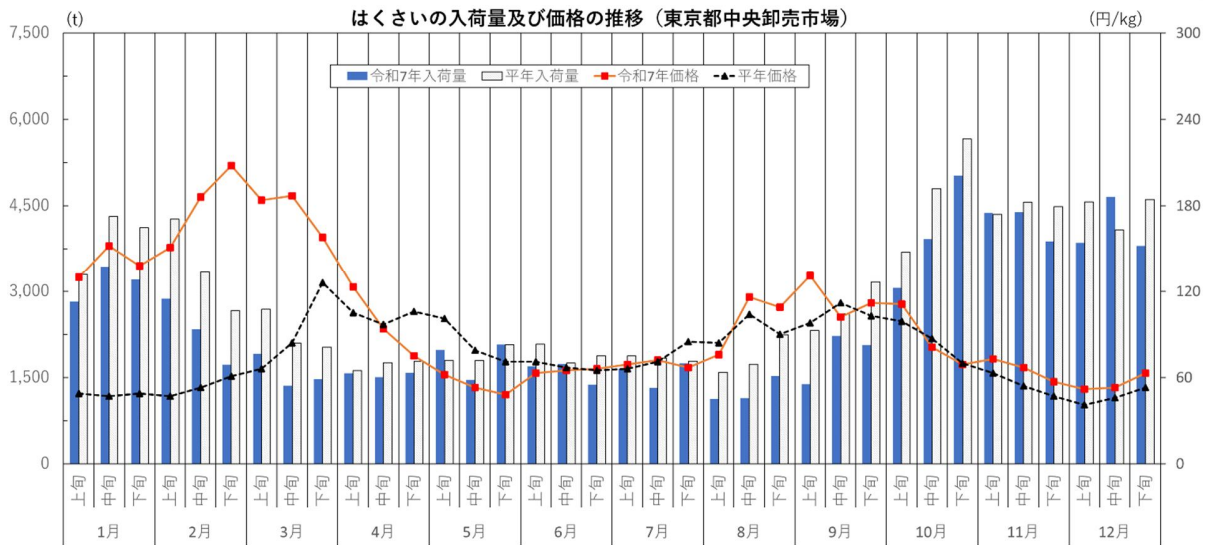
令和6年 キャベツ類の月別入荷実績
(東京都中央卸売市場計)



農畜産業振興機構「ベタ探」、原資料：令和6年東京都中央卸売市場年報

(2) はくさい

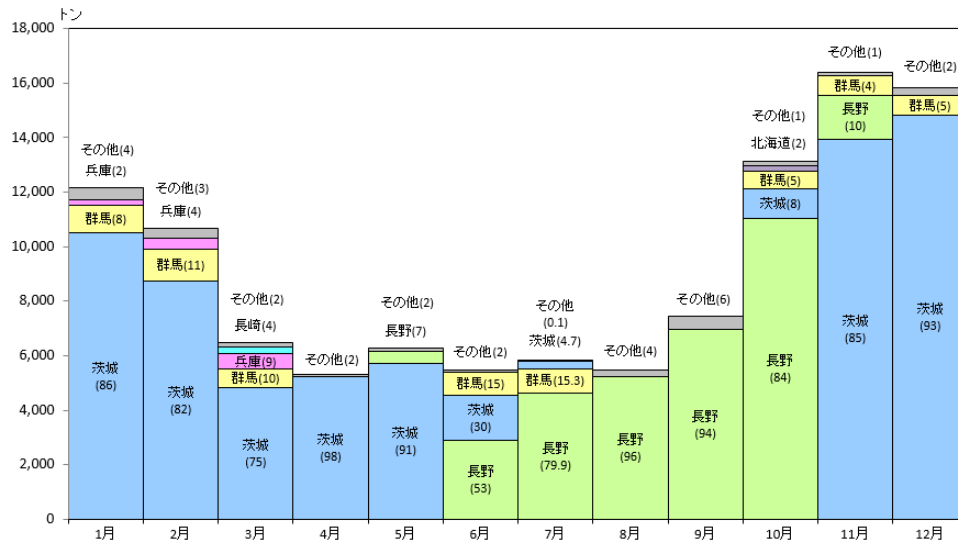
前年から続く野菜全体の高値と葉物野菜の供給不足により年初から高値が続いた。小玉傾向による価格の高騰から前倒出荷する産地では切り上がりが早かった。3月は適度な温度と降雨により、生育が進み4月以降、春作の入荷が増加し、過剰感から一気価格が下がった。8月中旬～9月は長野産の高冷地でも夏場の高温と乾燥の影響から小玉傾向となり、価格は上昇した。10月以降、長野産、茨城産の順調な入荷となったが高温・干ばつの影響で痛みも目立ち、価格は年末にかけては平年を上回って推移した。年間を通して入荷量は平年を下回る月が多かった。



資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注：平年とは、過去5カ年（令和2～6年）の旬別価格の平均値である。

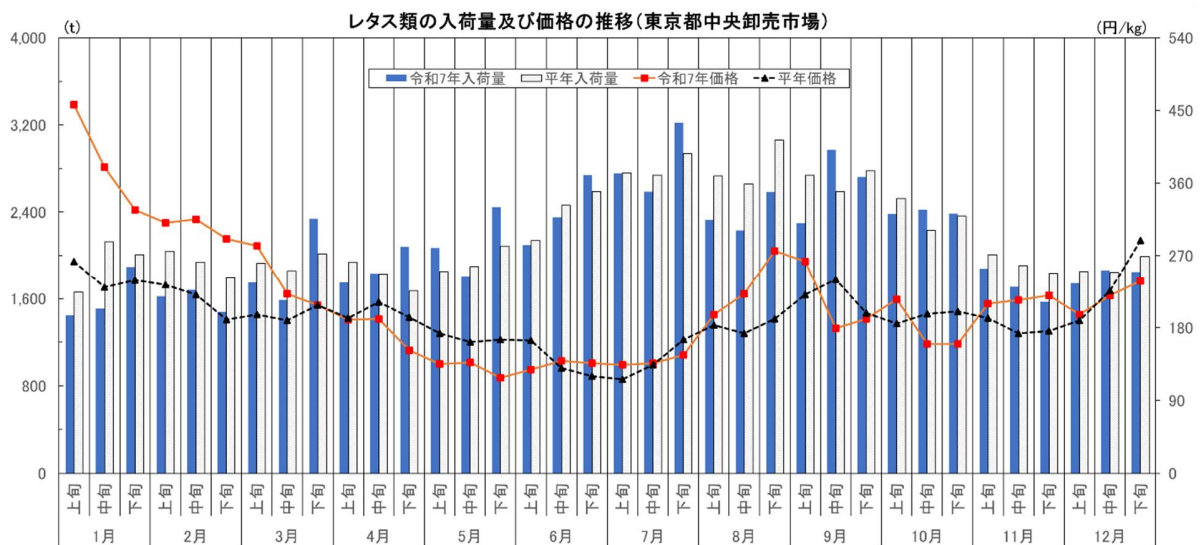
令和6年 はくさいの月別入荷実績
(東京都中央卸売市場計)



農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：令和6年東京都中央卸売市場年報

(3) レタス

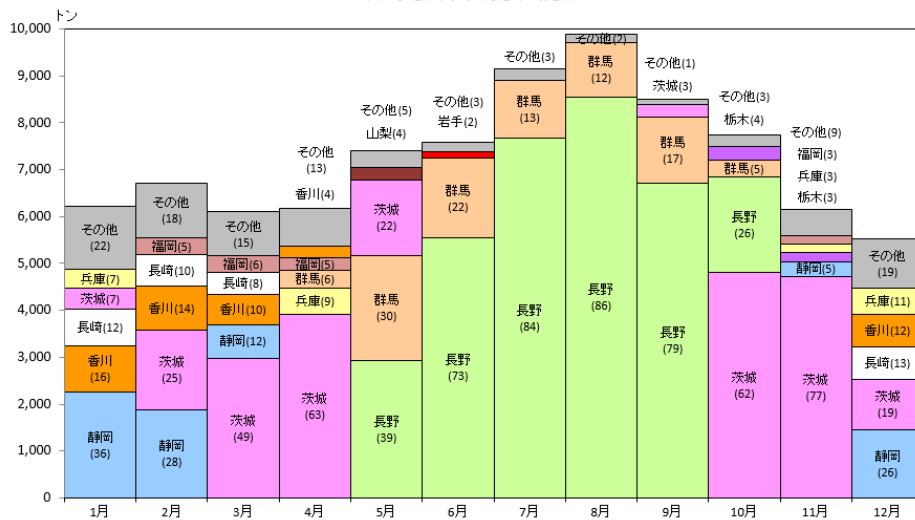
令和7年1月～3月中旬までは、生育期の低温と乾燥により小玉傾向となったが、下旬に茨城産が増量し一気に価格は下げ基調となった。4月以降、群馬産も順調な入荷となり、夏場にかけては長野産もピークとなり平年を下回る価格となった。8月以降は主産地の長野産が定植以降の高温、干ばつの影響により小玉傾向となり、価格は平年を大幅に上回った。10月は後続の茨城産が9月の台風後に作業をずらした生産者もあり遅れ気味だったが下旬から順調な入荷となった。11月以降年末までは西南暖地へ産地が移行したが夏場の高温・乾燥により生育遅延がみられたものの昨年に比べれば入荷量は多く、価格は年末にかけて平年を下回って推移した。



資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注：平年とは、過去5カ年（令和2～6年）の旬別価格の平均値である。

令和6年 レタスの月別入荷実績
(東京都中央卸売市場計)



農畜産業振興機構「ベジタブル」、原資料:令和6年東京都中央卸売市場年報

3 緊急需給調整事業の実施状況

(1) 事業実施状況

令和7年度事業においては、レタス、はくさいで実施しており、交付決定数量で約2,586トンである(2月26日現在)。フードバンクへの提供を含めた事業実施状況は、下表のとおり。

実施時期	対象品目	実施主体	数量	実施手法
4月下旬及び5月上旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	43t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
5月上中旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	207t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
5月下旬	春レタス (結球)	全農茨城県本部	6t	市場隔離(有効利用用途)
		全農群馬県本部	129t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
		全農長野県本部	308t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
5月下旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	120t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
6月中旬	春はくさい	全農茨城県本部	4t	市場隔離(有効利用用途)
6月中下旬	夏秋レタス (結球)	全農長野県本部	1,011t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
6月中旬	夏秋レタス (結球)	全農群馬県本部	161t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
7月中下旬	夏はくさい	全農長野県本部	227t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
7月中下旬	夏秋レタス (結球)	全農長野県本部	290t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
	夏秋レタス (非結球)	全農長野県本部	69t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
7月下旬	夏秋レタス (結球)	有限会社トップ リバー	10t	産地調整(出荷抑制)
12月中下旬	冬レタス (非結球)	全農福岡県本部	2t	市場隔離(有効利用用途)

実施時期	対象品目	実施主体	数量	実施手法
2月上旬	冬レタス (結球)	全農長崎県本部	— ※	市場隔離 (有効利用用途) 産地調整 (出荷抑制)
2月上旬	冬レタス (非結球)	全農福岡県本部	— ※	市場隔離 (有効利用用途) 産地調整 (出荷抑制)

注) 数量は、交付対象数量を記載。※は交付手続き予定。

(2) フードバンクへの無償提供

本事業では、産地調整によって廃棄せざるを得ない野菜をできる限り無駄にせず
に食べていただくために、出荷団体等によるフードバンク等への野菜の無償提供を
支援しており、フードバンク等を通じて子ども食堂、児童福祉施設、パントリー活動
団体等へ無償提供されている。令和7年度の取組状況は下表のとおり。

実施時期	対象品目	実施主体	数量	主な提供先
4月下旬及 び5月上旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	3,120kg	福岡県フードバンク協議会
5月中旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	1,240kg	福岡県フードバンク協議会
5月下旬	春レタス (結球)	全農茨城県本部	6,000kg	セカンドハーベストジャパ ン
		全農群馬県本部	300kg	NPO 法人三松会
		全農長野県本部	500kg	セカンドハーベストジャパ ン
5月下旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	1,240kg	福岡県フードバンク協議会
6月中旬	春はくさい	全農茨城県本部	4,450kg	セカンドハーベストジャパ ン他
6月中旬	夏秋レタス (結球)	全農長野県本部	600kg	セカンドハーベストジャパ ン
		全農群馬県本部	300kg	NPO 法人三松会
7月中下旬	夏はくさい	全農長野県本部	600kg	セカンドハーベストジャパ ン

実施時期	対象品目	実施主体	数量	主な提供先
7月中下旬	夏秋レタス (結球)	全農長野県本部	400kg	セカンドハーベストジャパン
7月中下旬	夏秋レタス (非結球)	全農長野県本部	80kg	セカンドハーベストジャパン
12月中下旬	冬レタス (非結球)	全農福岡県本部	1,824kg	福岡県フードバンク協議会
2月上旬	冬レタス (結球)	全農長崎県本部	— ※	—
2月上旬	冬レタス (非結球)	全農福岡県本部	— ※	—
合計			20,654kg	

注) 数量は、交付対象数量を記載。※は交付手続き予定。

<参考> 緊急需給調整事業の実施状況（交付年度ベース）

年度	実施状況	数量 (トン)	交付金 (千円)
平成19年度	出荷の後送り 市場隔離 : 冬キャベツ、秋冬だいこん : 秋冬だいこん、秋冬はくさい	4,721	119,455
平成20年度	市場隔離 : 夏秋キャベツ、夏だいこん	6,485	208,937
平成21年度	市場隔離 : 夏はくさい	1,119	40,284
平成22年度	出荷の前倒し 市場隔離 : 春キャベツ、たまねぎ : 夏はくさい	1,503	52,736
平成23年度	—	—	—
平成24年度	市場隔離 : 夏秋キャベツ、夏はくさい	11,348	355,522
平成25年度 ～平成28年度	—	—	—

年度	実施状況	数量 (トン)	交付金 (千円)
平成 29 年度	加工用販売 : 秋にんじん	1,486	45,890
平成 30 年度 ～令和元年度	—	—	—
令和 2 年度	市場隔離 : 冬キャベツ、夏秋レタス、 秋冬はくさい 出荷の後送り : たまねぎ、秋冬だいこん、 秋冬はくさい	18,117	400,488
令和 3 年度	市場隔離 : 春キャベツ、春はくさい、 春レタス、夏秋レタス、 夏はくさい、夏秋キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい、 秋冬だいこん、冬にんじん 出荷抑制 : 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬レタス、 秋冬はくさい、 秋冬だいこん、冬にんじん	25,553	1,260,160
令和 4 年度	市場隔離 : 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい、 秋冬だいこん、冬にんじん 出荷抑制 : 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬レタス、 秋冬はくさい、冬キャベツ、 秋冬だいこん、冬にんじん	29,738	1,526,060
令和 5 年度	市場隔離 : 夏秋レタス、夏秋キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい 出荷抑制 : 夏秋レタス、夏秋キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい	17,061	775,941
令和 6 年度	市場隔離 : 冬レタス、秋冬はくさい 出荷抑制 : 冬レタス、秋冬はくさい	1,980	101,590